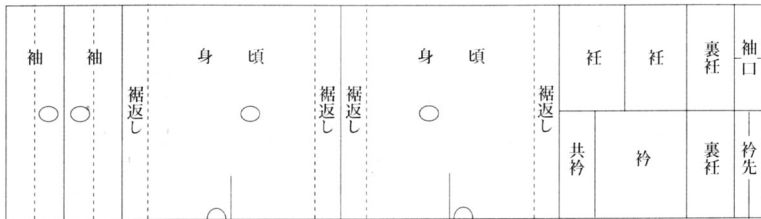


平成27年度和裁士技能検定(2級) 学科試験問題

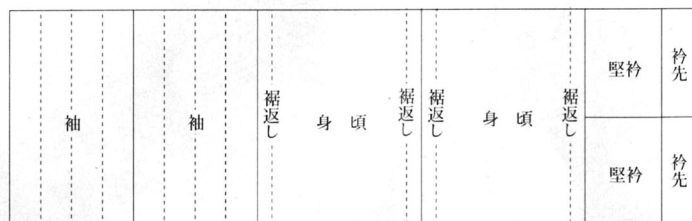
実施日:平成28年3月13日  
所用時間:60分

(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよくわかるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入)  
(配点各問6点)

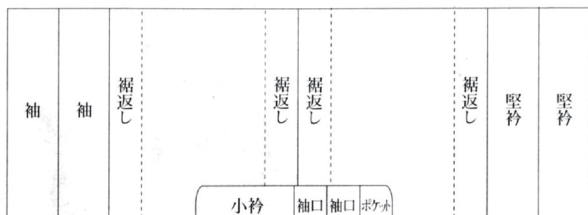
①並幅物16m(4丈2尺2寸)で女物袷喪服(裾無垢)を共裾を作りたい。  
裁断図を記入し、紋の位置および衿肩明を明記しなさい。



②並幅物12m(3丈1尺7寸)の反物で本裁女物長襦袢を作りたい。  
裁断図を記入しなさい。



③並幅物10m(2丈尺6尺4寸)で道行衿袷半コートを作りたい。  
裁断図を記入しなさい。



④並幅物8m(2丈1尺1寸)で四つ身長着を作りたい。  
裁断図を記入しなさい。



⑤並幅物3.2m(8尺5寸)の裏地で、女物長着の裾回し(八掛)を裁ちたい。  
裁断図を記入しなさい。



(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置に付けなさい。  
(配点各問2点)

- ( × ) 1. 男子礼装は黒羽二重二重紋付き長着二枚重ねに袴を着け、羽織も黒羽二重の染め抜き五つ紋に黒紐を着ける。
- ( ○ ) 2. 男物長着の内揚げ位置は後より前を低くするのが普通であり、その位置は帯の下に隠れるような高さがよく、普通肩より測って着丈の4/10位下がった位置が適当である。
- ( × ) 3. 染料に用いられるペ美花は、沖縄県で栽培されており、オレンジ色の花である。
- ( ○ ) 4. シルケット加工した木綿は、絹のような光沢がある。
- ( ○ ) 5. 婦人用羽織の衿用布は、羽織丈に約27cmを加えたものを2倍とればできる。
- ( × ) 6. 婦人用長着の前袖付けを後袖付けより長くすれば、繰越を付けなくてもよい。
- ( × ) 7. 男物は織りの抱き紋の位置は、反物の幅の中央にある。
- ( × ) 8. 一般に付け紐を衿に付ける場合、男児用のものは縫い目を上にし、女児用のものは縫い目を下にして付ける。
- ( ○ ) 9. 紅下とは、紅を下染めして、その上から他の色をかけることをいい、主に黒染めに用いる。
- ( ○ ) 10. 女物本裁羽織の袖丈は、長着丈より1.5～2cm控えるとよい。
- ( ○ ) 11. 帷子とは、古くから裏のない単衣物の総称で、今日では夏の麻のきものを言う。
- ( × ) 12. 帯もきものと同じように、正式礼装用として格式が高いのは、織りの帯より染めの帯である。
- ( ○ ) 13. 子供用共裾長着を仕立てる場合、裾はつないだまま仕立てる。
- ( × ) 14. 男袴の相引き寸法は、行燈袴、襦付袴ともに紐下の約1/3位とする。
- ( ○ ) 15. 和服の一つ身、紋の位置は、背紋下がり(衿付けより)4cm(1寸)、袖紋下がり(袖山より)6cm(1寸5分)、抱き紋下がり(肩山より)11.5cm(3寸)である。
- ( × ) 16. 男児五歳の祝着の袖は振りを付けて、丸みを付ける。
- ( × ) 17. 江戸小紋は、徳川中期に名付けられた名称である。
- ( × ) 18. 上布とは一般に麻織物であるが、薩摩、越後、能登、大和のうち、大和は絹織物である。
- ( × ) 19. コートの袖丈は、きものの上に着るからきものより長くする。
- ( × ) 20. 和裁の作業面の照度は、100ルクスが望ましい。
- ( × ) 21. 総絞りの裏打ちには、共布で裏打ちしなければならない。
- ( ○ ) 22. 被布には飾り紐を付けるが、内紐は付けない。
- ( × ) 23. 長襦袢の後身幅、前身幅は、きもの下に着るので、きものそれより狭くするのがよい。
- ( ○ ) 24. 男物の袴の紐下とは、前紐の下部から裾までを言う。
- ( × ) 25. 江戸小物は多くの色を使って染められているが、京小紋は一色で染める。
- ( ○ ) 26. 袋帯や名古屋帯を締めるとき、胴(手)は「わ」を下にして締める。
- ( ○ ) 27. 女物長着の裾下(衿下)寸法は、身長約1/2を基準にする。
- ( ○ ) 28. 衿を多く抜いて着付けをする人のきもの袖付けは、後ろを少なくする。
- ( × ) 29. 道行コートはフォーマルなもので、寒いときはもちろん、どんなときでも脱ぐ必要はない。
- ( × ) 30. 糸は太いほどデニール数は小さくなり、番手の数は大きくなる。
- ( × ) 31. 色の三原色とは、色相、明度、彩度である。
- ( × ) 32. 横断柄を肥満体の人に仕立てる場合は、柄を並べたほうがよい。
- ( ○ ) 33. 裁ち板には、柳、朴、桂、銀杏などのよく枯れたものが適している。
- ( × ) 34. ①絞りゆかた、②上布、③御召、④緋は、先染めものである。
- ( × ) 35. 女物長着の袖の柄は、右も左も後ろにポイントをおくとよい。